

会報

第118号

平成31年2月15日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112
発行: 文久堂

「特別支援教育」に学ぶ



新潟県特別支援教育研究会
副会長 小林 徹哉

特別支援教育の視点から「なるほど」とか「次は、これに心掛けていこう」と考えた事項や内容はたくさんあります。具体的に学校での子どもたちの姿や指導する教師の関わり方、特別支援学級や通級教室での関わりを想起してみただけでも、特別支援教育だけの領域に止まらないことがいっぱいあるのが現実です。私は、今年度の「全日本特別支援教育連盟全国大会（名古屋大会）」に参加して、山形大学大学院の三浦光哉教授の記念講演を聴く機会に恵まれました。この三浦教授が、特別支援学校の現場を経験していたことや新潟県でも学んだことがあるという経歴に引き付けられた部分もありましたが、何よりも講演内容が光っていました。現場の実態を熟知し、できる連携を考えて実践していた点に拍手でした。まさしく、主体的に特別支援教育の世界を拓いていっているパイオニアです。講演内容は「特別支援」から「不登校」「学力

向上」にまで及びましたが、芯がぶれず、「さすが！」と思わされることばかりでした。いわゆる「普通の特別支援教育の課題」ではなくて、『どのよう地域で連携を築いたか、継続的に活用するか』の視点からキーワードを中心に紹介します。

大事なことは「①スクリーニング ②全員参加の打合せ会 ③キーパーソンを通じたアセスメント作成 ④研修Ⅱ指導力向上のシステム」と受け止めました。①観点を決めたスクリーニングを徹底します。チームの基準で評価（判断）し、児童生徒の状況や目指すものを明確化します。②巡回相談後の会議に全員（大学教授、指導主事、相談員、保健師、課長、校長、学校のCO、担任）が参加することで状況や次のステップがはつきりと見えてきます。③キーパーソンを通しての判断会議で、「心理アセスメント（総合判断）」の信用性が高まり、保護者の同意が得られます。④個別の支援計画策定を意図して「初級・中級・上級」の研修講座を用意し、それをクリアすると自信をもって支援ができるシステムをつくって継続するようにします。

一人でできることには限界がありますが、チームで、連携している人たちが全員で「できること（しなければならぬこと）」を増やして、相互に補完し合うシステムが「普通だ」という状態、雰囲気にしていきます。この「特別支援教育の流れ」が、学校全体や地域、保護者へと波及していくのです。だから、「不登校」「学力向上」でもこれらのよさが強調されるのです。この特別支援教育の「連携」「システム化」が就学、不登校、学力、生活指導に直に響いてきます。影響します。私たち一人一人が、主体的に学び、連携をつくる立場を目指しましょう。

平成30年度 主な事業報告

理事会・評議員会

- ・第一回理事会・評議員会（5月30日）
- ・第二回理事会（2月4日）

研究大会

- ・上越地区 上越市南部大会
（8月10日 妙高市文化ホール他） 約400名
- ・中越地区 長岡大会
（11月28日 長岡市みしま体育館） 約200名
- ・下越地区 新潟市大会
（11月21日 新潟市江南区文化会館） 約300名

研究部会

- ・知的障害部
（7月31日 秋葉区文化会館） 約200名
- ・自閉症・情緒障害部
（8月9日 長岡リリックシアターホール） 約210名
- ・言語・難聴部
（7月25日 長岡市立中央図書館） 約100名
- ・肢体不自由・病弱・身体虚弱部
（リーフレット発行 3月予定）

全特連関係

- ・関プロ群馬大会
- ・提案者、司会者各2名
- ・会長、事務局派遣
- ・全国大会名古屋大会
（8月6日 昌賢学園まえばしホール他）
- ・副会長派遣
（10月25・26日）

会報

- ・会報117号発行（7月）
- ・会報118号発行（2月）

名古屋日本特殊陶芸市民会館他

平成30年度 各地区研究大会 報告

上越地区・上越南部大会

今年度上越地区は、上越市南部地区と妙高市が共催で大会を実施しました。大会主題「共生社会の実現を目指した切れ目ない一貫した指導・支援の在り方」のもと四〇〇名を超える参加者がありました。

分科会は、特別支援教育の課題と今後の方向性を踏まえ六つのテーマを設定しました。初めに、話題提供者からテーマに基づく実践が紹介され、その後、協議が行われました。参加者は、日頃の実践や悩みについて活発に情報交換を行いました。最後に、各アドバイザーから課題解決に向けた視点や取組、連携等についてご指導いただき、今後の実践の大きな参考になりました。



全体指導では、県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事福田功様から「新潟県における特別支援教育の現状と課題」についてご講話いただきました。本県の特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室の推移や特別支援学級卒業生の高等学校進学率について説明していただきました。また、切れ目ない一貫した支援について新潟県発達障害者支援体制整備に関する基本方針及びアクションプランに基づいた支援体制の構築等についてご指導いただきました。

続いて、宮城学院女子大学教授梅田真理様から「多様な子どもたちがともに学ぶインクルーシブ教育システムの構築に向けて」とい

う演題でご講演をいただきました。まず、インクルーシブ教育と特別支援教育について、そして、「合理的配慮」をどう実践するか、最後に、自立に向けてという柱立てでお話ししていただきました。本大会のテーマである「切れ目ない一貫した支援」について何を大切にしているか、そして「合理的配慮」をどう実践するか、最後に、自立に向けてという柱立てでお話ししていただきました。本大会のテーマである「切れ目ない一貫した支援」について何を大切にしているか、そして「合理的配慮」をどう実践するか、最後に、自立に向けてという柱立てでお話ししていただきました。本大会のテーマである「切れ目ない一貫した支援」について何を大切にしているか、そして「合理的配慮」をどう実践するか、最後に、自立に向けてという柱立てでお話ししていただきました。

(事務局 上越市立針小学校)

中越地区・長岡大会

長岡市みしま体育館を会場としてお借りし、「一人一人のニーズに応じた特別支援教育の展開」というテーマのもと、二〇〇名を超える参加を得ての開催となりました。

開会式では、義務教育課特別支援教育推進室指導主事の正田敦士様よりご指導を賜りました。「本県の特別支援教育の現状と課題」を説明していただき、参加者それぞれが、自分の日常実践を県の課題と正対させて考えることができるお話でした。

引き続き行った講演会では、新潟大学教職大学院教授の古田島恵津子様を講師にお迎えし、「通常学級における特別支援教育とUDL」という演題で講演いただきました。特別な支援を必要として

いる児童生徒と保護者のニーズにいかに対応するか、具体的な事例を挙げながらの講演に、参加者は多くを学ぶことができました。



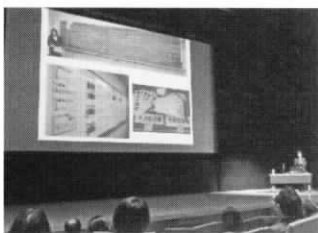
その後、五つの分科会
①通常学級における特別支援教育
②小学校の特別支援学級
③中学校の特別支援学級
④通級による指導
⑤関係機関との連携
に分かれ、それぞれに実践発表・協議・指導という形で研修を行いました。いずれの分科会においても、前段の講演を踏まえた活発な協議がなされました。また、各分科会の指導者による指導も「大変分かり易かった。」と参加者から高評価を得ることができました。

研究大会で得た知見と経験を生かし、幼保小中高という縦の学びの連続性と福祉・医療・労働など横の切れ目ない連携・協働の重要性を確認し合うことができました。

来賓・講師・指導者の先生方をはじめ、関係者の皆様に心より感謝いたします。
(事務局 長岡市立与板小学校)

下越地区・新潟市大会

大会主題「多様な学びの場で、共に学ぶ特別支援教育の充実を目指して」のもと、新潟市江南区文化会館を会場に、下越地区の小中学校・特別支援学校の教職員、保護者、各関係機関から三〇〇名を超える参加者を得て全体会と分科会を開きました。



全体会では、新潟市教育委員会教育長前田秀子様から、特別支援教育に期待を込めたご祝辞をいただきました。続いて新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事岡村浩之様と新潟市教育委員会学校支援課特別支援教育班総括指導主事齋藤いずみ様からそれぞれ県と市の特別支援教育の現状と課題について、詳細なデータを基にご指導頂きました。分科会は、①校内支援体制づくり②小学校特別支援学級での支援③中学校特別支援学級での支援④通常学級での支援⑤通級指導教室での支援⑥家庭・地域での支援の六つとし、発表者の具体的な実践発表を基に、ファシリテーションや小グループでの話し合いを取り入れ、活発な意見交換が行われました。また、指導者からは、それぞれの分科会の実践発表に的確なご指導をいただき、充実した分科会となりました。

少子化に反比例するかのよう増加する特別支援を必要とする児童生徒の対応がますます重要となる中、本大会での実践発表やご指導が日頃の指導に生きていくものと確信しております。

今回の大会は、働き方

改革の視点から、できるだけ準備に時間を掛けないように工夫したつもりですが、さらなる改善が必要と感じました。お忙しい中、指導者の皆様をはじめ、発表、司会、記録の皆様、大会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

(事務局 新潟市立女池小学校)



全特連

●関プロ群馬大会 (県内派遣：提案者2名 司会者2名 本部役員1名)

「見方・感じ方の特性を合わせた支援」
～一人一人に合わせた伝え方～

三条市立裏館小学校 樋熊 則子 教諭

「児童生徒への一貫した支援の連続と地域でのよりよい生活を目指した総合支援室の取組」

長岡市立高等総合支援学校 高桑 裕子 教諭

関プロ群馬大会に参加して

三条市立裏館小学校

樋熊 則子

第五分科会「自閉症スペクトラム児童生徒の支援」で見方、感じ方の特性に合わせた支援について提案発表いたしました。

児童が適切な行動を取ることができない原因の一つに教師が自閉症スペクトラムの特性による見方や感じ方の違いに気が付かないまま支援していることがあります。

活動するときに見る視点、考える視点を児童に具体的に提示すること、動機付けをすること(トークン)、活動のパターンを考えておくことで、活動に参加しやすくなります。加えて、スキルの定着のためには自己評価と他者評価を合わせることが必要です。

指導・助言者の高崎健康福祉大学の五十嵐一徳先生からは、自閉症スペクトラムの特性から自分から働きかけることが苦手であるために活動への動機付けが重要であるご指導いただきました。

本大会で得たことを今後の教育活動に生かし、児童が「できた」という場面を作っていきたいと思えます。



関プロ群馬大会に参加して

長岡市立高等総合支援学校

高桑 裕子

群馬県前橋市で行われた第五十二回関東甲信越地区特別支援教育研究協議会に参加させていただきました。株式会社クライム金井 修様のご講演や分科会での意見交換を通して多くのことを学ぶことができました。

私は、第十七分科会「保護者・地域との連携」というテーマで当校の「総合支援室」の取組について発表させていただきました。

当校の「総合支援室」の三本の柱である「相談支援」「進路移行支援と進路定着支援」「関係機関との連携推進」について紹介しました。参加者の皆様との意見交換、群馬大学の任准教授様のご指導の中から、「総合支援室」が関係機関と児童生徒を「つなぐ」役割を果たしていること、地域に存在を周知するための工夫が必要であること等を、確認することができました。

このような学びの機会を与えていただいたことに感謝するとともに、群馬大会で得たものを生かして、「総合支援室」のさらなる充実を目指し、努力し続けたいと思えます。



祝 全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

渡 辺 徹 様 (前会長 前新潟市立鏡淵小学校長)

長年にわたり、当県の特別支援教育の発展に貢献され、全国大会で表彰されました。

平成30年度 研修部 研修の成果

知的障害部

早稲田大学大学院教育学研究科教授の高橋あつ子様より「読み書きのつまずきから考える子どもの実態把握と学び支援」というテーマでご講演いただきました。

読み書きに困難を抱える児童・生徒をどうアセスメントするか、具体的なアセスメントツールを紹介していただき、困難さの課題を詳細な視点で分析することの大切さを教えていただきました。ICTを適切に用いる等で困難さを補い、児童・生徒の学びを保障することや学びの多様性に応じるUDLの観点からの具体的な支援についてのお話は、参会者の今後の指導に大変役立つものとなり、日々の授業を改善する動機付けにもつながりました。

言語・難聴部

国立特別支援教育総合研究所研究企画部主任研究員で、多層指導モデルMIM（ミム）の開発者でもある海津亜希子様より、「読みのつまずきの早期把握・早期支援をめざした多層指導モデルMIM」学びを楽しみ、学びから自信を得る」の演題で、御講演をいただきました。

その中で、MIM開発することになった背景からMIMで何を教えるのか（なぜ、特殊音節なのか？）、実際のアセスメント、効果的指導、エビデンスに基づいた支援に至るまでを実物を使用しながら、実演を交えてご指導いただきました。海津先生の「子どもの可能性を信じ引き出す」教育信念に感動するとともに、支援を要する子への即時対応の大切さを改めて痛感しました。

自閉症・情緒障害部

教育ジャーナリストで編集者の品川裕香様より、「これからの社会を生き抜く力を育てる」小中学校での自立に向けた指導や支援」の演題で、ご講演をいただきました。

発達障害の有無に関わらず、子どもたちに規範意識と生活感情・言語・行動の全てを自分で管理できるセルフコントロールの力を育てることの重要性と、「忍耐」等、今から訓練しておくことが必要な事項を、エビデンスに基づいて詳細にお話ししていただきました。「子供の行動を多面的に見て、適切な手立てを考え、将来に向けた指導をしていくことが大切だと学んだ」等、多くの参加者が将来を見据えた指導の重要性を感じた研修会となりました。

編集後記

県特支研だより「No118号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が新潟県の特別支援教育の一助となることを願っております。

県特支研のHPをご覧ください



URL <http://www.niigata-net.or.jp/kentokusiken/>
 メールアドレス tokusi@niigata-net.or.jp

全特連の関プロ群馬大会や各地区大会、研究部研修会の様子を紹介してあります。

平成30年度 新潟県特別支援教育研究会

地区大会の紹介

- 1 上越地区…上越南部大会
 - 日時 平成30年8月10日(金)
 - 会場 妙高市文化ホール・新井総合コミュニケーションセンター・新井ふれあい会館・はね馬アリーナ
 - 事務局 上越市立針小学校
- 2 中越地区…長岡大会
 - 日時 平成30年11月28日(木)
 - 会場 みしま体育館
 - 事務局 長岡市立万板小学校
- 3 下越地区…新潟市大会
 - 日時 平成30年11月21日(水)
 - 会場 江南区文化会館
 - 事務局 新潟市立女池小学校

新潟県特別支援教育研究会 平成30年度 各研究部小取組

研究部	研究部小取組	実施日時	会場	事務局
知的障害部	「読み書きのつまずきから考える子どもの実態把握と学び支援」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
言語・難聴部	「読みのつまずきの早期把握・早期支援をめざした多層指導モデルMIM」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
自閉症・情緒障害部	「これからの社会を生き抜く力を育てる」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
発達障害部	「発達障害のある子どもたちの学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
視覚障害部	「点字の活用と学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
聴覚障害部	「聴覚障害のある子どもたちの学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
肢体障害部	「肢体障害のある子どもたちの学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
知的障害部	「読み書きのつまずきから考える子どもの実態把握と学び支援」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
言語・難聴部	「読みのつまずきの早期把握・早期支援をめざした多層指導モデルMIM」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
自閉症・情緒障害部	「これからの社会を生き抜く力を育てる」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
発達障害部	「発達障害のある子どもたちの学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
視覚障害部	「点字の活用と学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
聴覚障害部	「聴覚障害のある子どもたちの学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校
肢体障害部	「肢体障害のある子どもたちの学びの保障」	8月10日(金)	妙高市文化ホール	上越市立針小学校